

シュートボールのちょっとした工夫

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

秋の運動会が終わり、体育の授業は、低学年でシュートボール、中学年と高学年ではティーボールを行なっています。そこで、ここではシュートボールの工夫したことをお知らせします。

<シュートボール>

この単元で身に付けさせたい技能は、

①ねらったところにボールを投げたり、的に当てたりする力

②ボールを捕る力

③ボールをシュートできる位置に動ける力

の三つです。

そのため、まず授業の導入では、学級全体を2チームに分け、向かい合って30個のコーンを、レジボール（レジ袋、新聞紙、ガムテープで作ったボール）で投げて、倒すことを行います。レジボールを使う理由は、低学年でも片手で掴みやすいこと、コーンの向こう相手がいても怪我しないこと、そしてボールが遠くに転がらないことの3点です。

行い方を覚えた頃から、片足だけ緑の線の中に入れてもよいという条件を追加しました。すると、多くの子どもたちは、自然に体のひねり動作とムチ動作を身に付けていきました。





最初はレジ袋部分が見えていますが、破れて補修し続けると右の写真のようになりました。

次は、EVA 素材でできたボールを使った「投げつけキャッチ」です。跳び箱で使う踏切板やロイター板、目印のある壁へ向かって投げ、キャッチします。五つの場所を準備していますが、場所は自分で好きなところを選択しています。困っている子がいるときは、こちらから個別にアドバイスします。

ここでの私のこだわりは、踏切板、ロイター板の角度です。投げた後に、ボールの跳ね返りを瞬時に予測してキャッチできる子もいますが、意図的にキャッチが成功するように、踏切板の角度を毎時間、子どもの状況に合わせて微調整しています。その際、滑り止めとして使用する水道のホースが、非常に便利です。



「投げつけキャッチ」を楽しむ子どもたち（2年生）





テイクバックから



毎時間、角度調整しています。



ナイス スロー！



滑り止めとして重宝する水道のホース



ナイス キャッチ！



最後は、5面のコートと40球のボールをフルに使ってのシュートゲームです。一人ひとりのシュートとキャッチの技能が高まっているので、ボールが多いルールの際は、フェイントをかけてのシュート、ボールが少ないルールの際は、パスからのシュートなど、子どもたちが工夫しています。子どもたちってすごいなと感心しております。

